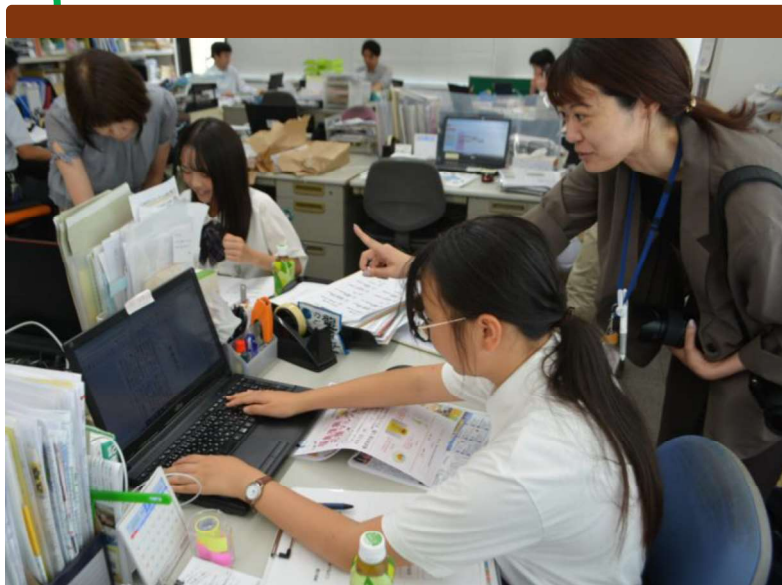


こどもレポーターによる お仕事魅せまショー #1



取材日: 2025.7.22
レポーター: M.A(中3)
S.N(中3)
H.M(中1)



タウンニュース

<会社概要>

- 株式会社タウンニュース社
- 本 社：横浜市青葉区荏田西2-1-3
- 設 立：1980年8月1日
- 従業員数：197名
- 業務内容：タウンニュースの発行各種印刷物の企画、制作、印刷、ウェブサイトの企画、運営、地域プロデュース、公民連携事業

株式会社タウンニュース社

株式会社タウンニュース社は、「1つの街(タウン)に1つの新聞(ニュース)」をコンセプトに、神奈川県と東京都の多摩地域で、地域情報が盛りだくさんの「タウンニュース(フリーペーパー版・デジタル版)」を制作・発行しています。記者が担当地域のすみずみまでまわって、ジャンルを問わず多種多様な情報をキャッチ！集めた情報を、役に立つニュース記事やお店・企業のPR広告として、紙面やWebサイトに掲載し、地域の読者に届けています。そのほかにも、イベントのチラシやポスター、会社の冊子の制作、独自のWebサイトの運営、意外なところでは、公民館の管理業務など、地域に関わる仕事を幅広く行っているそうです。

株式会社タウンニュース社の記者は、ある事柄の事実を調査・取材し記事を作成するいわゆる「記者」の業務に加えて、広告営業の業務も担い、1人2役で活動しています。そうすることで、担当地域の方との密接な関係を築くことができ、地域で起きていること、地域の方に役立つニュースを高い鮮度で届けることにつながっているのだと学びました。

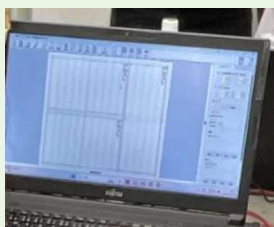
また、ニュースは新鮮さが大事ではあるものの、①誤った情報はないか、②独自性を持つネタか、③差別的でないか、④読者にとって理解が難しい内容となっていないか、などの視点で記事づくりを行っており、早ければよいわけではない、というのも業務を行う上で大きなポイントだそうです。



自分たちで記事を作ってみました！

■体験内容：記者の業務のうち、記事の作成・編集

- 実際に記者の方が使用している記事作成システムを使い、レポーター3名がそれぞれ同じ実際の催しの資料をもとに告知記事を作成し、編集・校正も行いました！
- 完成した記事は、お互いに見せ合い、講評を行いました。



若手社員さんから記事作成のコツを教えてもらいました！

■業務を体験してみて…

- 1つの記事を編集するのに思った以上に時間がかかり、文章の構成や文字数、読み手のことを考えながら記事を作り上げることの難しさを実感しました。
- 読みやすい表現や言い換えが難しく、悩んでいると、若手社員さんが記事に合わせた言葉選びのヒントやコツを教えてくださいました。

出来上がった記事は三者三様でした！



教えて先輩！若手社員へのインタビュー

取材にご協力いただいた若手社員の方へ気になることをインタビューしました！



◆ 齋藤さん 横浜北支社記者
2023年入社。文章の読み書きが好きで、人と交流することに面白みを感じ、記者を志す。

😊 終業後にみんなでカードゲームをすることが楽しみです！！

◆ 入社理由

地域の方と交流しながら、コアな情報発信ができる仕事に魅力を感じ、町について知ることが自分の学びにもつながるのではないかと考えたからです。

◆ 業務内容

地域の方と交流し、取材ネタを探したり、困りごとを聞いて、広告を提案することです。



印象に残っている取材はありますか？

戦争を体験された方の取材をした経験は、私にとって社会に対する見方が大きく変わるものになりました。自分の知らない世界や、知ることができない時代の話を知ることができることは、記者の仕事ならではの、と思います。

自分があまり知らない分野の取材では専門用語を調べるところからスタートになるので、理解することも覚えることも難しいですが、知識が広がることが、面白さにつながっています。

自分の趣味など関心がある内容について取材するときは、仕事でありながら、やっぱり楽しいですし、印象に残りやすいです。ただ、記者としての関わり方になるので、裏側を知ることができたり、読者に伝わるように冷静な視点から関わるなど、一味違った楽しさを味わうことができます。

働くうえで必要な“能力”はありますか？

相手を知ろうとする力。取材相手を知らなければ、読者に有意義な記事をつくることは難しいです。相手が“求めていること”や“考えていること”を想像する力があると、なおいいのかなと思います。

記者の仕事は、“伝えること”や“書くこと”に興味がある人が目指すと思われがちですが、“人と関わることが好きで、色々な考え方を知ってみたい人”が向いているのではないかと思います。

お仕事の魅力や、やりがいは何ですか？

取材相手の希望に沿った良い記事をつくることができたときに、感謝されたり、喜んでいただけたりと、「役に立てた！」と実感できて、やりがいを感じます。大変なことやそれまでに感じた苦労も、その瞬間にすべて帳消しになるくらい嬉しいですよ！

地域の人との交流を重ねながら、“その人のこと”、“その町のこと”を深く知ることができるのも、この仕事の魅力です。取材を通じて色々な人と関わることで、知らなかった世界を知ることができることは、自分の学びにつながっています。

大変なこと、苦労したことはありますか？

取材相手と自分の伝えたいことが食い違ってしまったときは、もっと取材相手を知ること、深く話を聞くことの大切さが身に染みます。取材相手の表情を見ながら、“取材相手の伝えたいこと”を引き出すことは難しいですが、この仕事を続けていくうえで大切だと感じています。

私が思う取材するときのコツは、取材相手の趣味を覚えて話題を振るなど、取材相手との心の距離を縮めることです。そうすることで、信頼関係ができやすくなり、取材がスムーズに進むようになります。

<インタビューや体験を通して感じたこと・学んだこと>

😊 記者が各々工夫を凝らして取材に挑んでいたりと、記事の言葉ひとつひとつに拘っていたりして、やりがいを感じていることがよく分かりました。独自ネタで興味を引く記事づくりをしていることは初めて知りましたが、お話を伺って、人や地域に深く関わる記者という仕事に興味を持ちました。(M. A)

😊 記事の表現方法や話題の盛り上げ方など、記事づくりひとつに記者の技術がたくさんあることを学びました。記事を書く体験をして、記者の仕事の難しさを感じましたが、地域の方々と関わることで、感謝の気持ちを伝えてもらえることは、やりがいにつながり、楽しい仕事だと思いました。(S. N)

😊 取材に当たって、「大変ではあるものの、事前に調べておくことが大切」というお話があり、日頃の自分たちの学校生活の中でも活かすことができるのではないかと感じました。何気なく生活している日々の中で、自分たちの知らないところで色々な人の力で私たちの暮らしが豊かになっていることを知りました。(H. M)